



東京藝術大学



1936年12月5日「邦楽大演奏会」（於：岐阜市公会堂）より《秋韻》演奏風景

宮城道雄と楽器開発

——宮城道雄没後70年に寄せて

箏曲家・作曲家として知られる宮城道雄(1894-1956)。
その活動は作曲や演奏にとどまらず、十七絃、八十絃、
胡弓、短琴など、新たな楽器の考案にも及びました。
宮城道雄没後70年を迎える2026年。
東京藝術大学に残る貴重な楽器や史料とともに、宮城
が追い求めた新しい響きと、邦楽の可能性を紹介します。

曲 目
宮城道雄 作曲

「落葉の踊り」
「今日のよろこび」
「湖辺の夕」
「夢殿」

出 演

藤原道山
仲辻真帆
帯名久仁子
日吉章吾
箏曲生田流専攻学生

2026年
10月29日[木]

19:00 開演 (18:30開場)

東京藝術大学音楽学部第1ホール
入場無料 (定員80名・要事前申し込み・先着順)

二次元コードを読み込んで
Googleフォームよりお申し込みください



申込期間：2026年9月15日（火）10:00～

※定員に達し次第、受付を終了します。

※就学前のお子様の同伴・入場はできませんので、ご了承ください。

※スケジュール・曲目・出演者等は都合により変更となる場合がありますので、
ご了承ください。

見る、聴く、知る。

楽器と史料からたどる宮城道雄の挑戦

1920～30年代、宮城道雄は邦楽の普及と新しい響きを求め、さまざまな楽器を考案しました。本企画では、実際の楽器や歴史資料を紹介しながら、その開発の背景を解説。さらに宮城道雄の作品を演奏し、楽器が生み出す響きを体感していただきます。

紹介する主な楽器

十七絃 大十七絃／小十七絃／十七絃（折り畳み式）

短琴

八十絃

胡弓 小胡弓（伝統楽器）／大胡弓（宮城胡弓）／玲琴（田辺尚雄考案楽器）

東京藝術大学未来創造継承センター大学史史料室、一般社団法人 宮城道雄記念館ほか所蔵の貴重な実物資料を展示予定。

特別展示

大学史史料室所蔵資料を中心に、宮城道雄ゆかりの楽器、1930年代の東京音楽学校における邦楽演奏会・演奏旅行の写真、当時の演奏会プログラム、宮城道雄肖像などを紹介します。



藤原道山
（尺八）



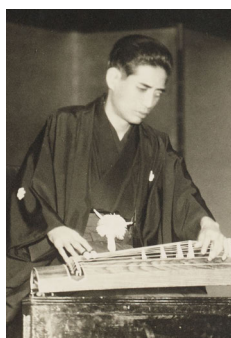
仲辻真帆
（お話）



帯名久仁子
（箏曲生田流）



日吉章吾
（箏曲生田流）



宮城道雄

宮城道雄（1894～1956）は、日本の箏音楽を大きく発展させた作曲家・演奏家です。8歳で失明した後、箏の道に進み、伝統を生かしながら新しい技法や表現を追求しました。代表作「春の海」をはじめ、

生涯に400曲以上を作曲。その作品は、演奏会用の作品はもちろん、演劇やラジオ番組の音楽、教育のための作品、さらには校歌に至るまで、日本の音楽文化の幅広い分野に及んでいます。また、十七絃や宮城胡弓などの新たな楽器を考案したほか、短琴の開発などを通じて邦楽の普及にも取り組みました。教則本の出版や、東京音楽学校教授として後進の育成に尽力する一方、随筆家としても活躍し、数多くの文章を残しています。

東京藝術大学音楽学部第1ホール

〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8

交通のご案内

■JR 上野駅（公園口）・鶯谷駅（南口）

東京メトロ千代田線根津駅 より 徒歩10分

■京成線京成上野駅

東京メトロ日比谷線・銀座線上野駅 より 徒歩15分

